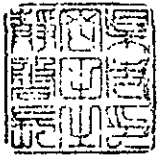


磐建道 第136-1号
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

静岡県磐田市長 鈴木 望



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

国土交通省道路局長より平成20年9月19日付、国道企第37号により依頼のありました標記の件につきましては、別紙のとおり回答いたします。

担当

建設部 道路建設課

庶務用地係 鷺見

TEL (0538) 37-4897

FAX (0538) 32-3948

E-mail : doro@city.iwata.lg.jp

【地方都市に必要な道路整備財源の確保】

道路特定財源制度は、平成20年度の税制抜本改革時に一般財源化することが閣議決定されましたが、「必要と判断される道路は着実に整備する」ことも内容として盛り込まれました。

地方都市の道路は、生活幹線道路のネットワーク化や安心・安全な歩行者空間の創出など、まだまだ整備しなければならない道路が数多く残っています。地方の道路整備の実情に十分配慮し、恒久的かつ安定的な道路整備財源の確保を強く要望します。

【画一的な道路整備の見直し】

画一的な補助金等の申請採択基準の道路は、時には周辺地域の実情にそぐわない必要以上（調整区域の両側歩道・広幅員の歩道など）の道路整備を求められる場合があり、地方自治体財政の大きな負担となっています。道路規格等において、地方自治体の要望が直接活かせる制度の見直しが必要と考えます。

【道路維持補修事業に対する新たな補助金制度の創出】

道路延長は毎年増加し、道路舗装の打ち換えや耐用年数を迎える橋梁の維持管理費などの道路関連維持補修に多額の費用を必要とし、十分な予算の確保が難しい状況であり、市民のニーズにほとんど応えられないのが現状です。今後、益々道路の維持補修費は増大していくと考えられ、市の財政を圧迫する要因ともなり、安全な道路を維持更新するためにも新たな補助金制度の創設を要望します。

【交通安全対策に対する新たな補助金制度の創出】

市内には高校5校を始めとし多くの学生・児童・園児が危険で狭小な道路を朝夕通学しており、市民からは早急に自歩道の設置を望む声が多く届いていますが、直に対応できないのが現実です。つきましては、交通安全対策として学校施設から半径1km圏内について視認性向上のためのカラー舗装に対する新たな補助金制度の創設を要望します。

○現状

平成17年4月1日に5市町村が合併し、静岡県西部地域では浜松市に次ぐ中核都市となりましたが、広域的な道路網の整備が不十分であり、特に国道1号線をはじめとする東西幹線の慢性的な渋滞は市民の生活を脅かしています。

また、合併により行政区域が拡大したことにより、短時間での自動車等での移動可能な道路網の整備が求められており、特に南北に長い本市にとっては、南北幹線道路の整備が重要課題となっています。

また、本市は高校も多数立地しており、学生・児童の通学時には、通学路にも関わらず歩道未設置区間がまだまだ多く、交通弱者にとって安心して通学できる環境ではなく、早期整備の要望が多く寄せられています。

また、高齢者社会のなかで、旧態依然の段差のある道路は、歩行するにも危険が伴うことから、ユニバーサルデザインに基づく道路整備が求められています。

また、生活道路の整備について、市民から多くの要望が寄せられますが、要望に応えられるのはホンの僅かであり、道路に関する維持補修費が年々増大し予算確保に苦慮しています。

○課題

- 1 国道1号バイパス、国道150号線等の東西幹線の慢性的渋滞の早期解消。
- 2 市内幹線道路網の早期整備。
- 3 自転車・歩行者道路の早期整備。
- 4 交通弱者が安心して通れるユニバーサルデザインに基づく道路網の整備。
- 5 橋梁の維持補修を始めとした道路維持補修費の予算の確保。

平成17年4月1日に1市3町1村が合併し、総面積は164.08km²、人口約18万人の新磐田市が誕生しました。静岡県西部地域では浜松市に継ぐ市となり、広域圏における中核都市の役割を担う街となりました。今後、中核都市としての役割を担う諸機能を効果的に発揮していくためには、しっかりとした都市構造を整えていくことが重要であり、人・モノの流れや交流を促す効果的な都市の骨格として、広域的な道路網の整備が求められています。

つきましては、主要道路の体系的な整備、安全で人に優しい交通環境の整備等により、市域での安定した生活を支え、活発な産業活動を促進する道路交通網の形成を目指します。

主要道路の体系的な整備として、広域圏の交通の円滑化と合併により広がった市域の交流・連携を高めるため、主要道路の計画的な整備を推進し、ネットワークの構築を図ります。

安全で人に優しい交通環境の整備として、歩道や自転車道の整備、ネットワークの構築を推進し、特に公共施設周辺や通学路については、ユニバーサルデザインに基づいた整備・改修を進め、高齢者等の誰もが移動しやすい交通環境の充実を図ります。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

静岡県 磐田市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
高規格幹線道路の整備推進	国道1号バイパス及び国道150号は、自動車交通の著しい増加により、慢性的な交通渋滞が常態化するとともに、その距離も年々増しているのが実情であります。慢性的な渋滞は、莫大なエネルギーの損失と二酸化炭素排出による地球温暖化など私たちの生活に与える影響は計り知れないものがあります。また、沿線地域では、交通渋滞を避ける大型車が生活道路に侵入するなど、住民の安全や生活環境に深刻な問題も発生しています。	国道1号バイパスの4車線化及び国道150号バイパス延伸の早期整備完成は、自動車交通の円滑化はもとより、地域経済の活性化や活力ある都市づくりに繋がります。	
地域の歴史・文化が薫る都市づくり	東海道の宿場町として栄えた見付宿の街並みの風情を活かした景観形成を図るため、電線の地中化や、弱者にも配慮した歩行者空間の整備を実施する。	江戸時代の宿場の歴史景観に配慮したまちづくりの創出と賑わいのある商店街づくりを構築。	
交通の立地条件を活かした産業集積による活力ある街づくり	東名高速道路磐田インターチェンジや遠州豊田スマートインターチェンジ等の交通の利便性を生かした遠州豊田PA周辺区画整理事業により、工場と大型商業施設等を誘致し、まちづくり交付金による周辺道路網の整備をおこなっている。	優良企業を誘致することにより、安定した雇用の創出と磐田市の財政の強化。	